



## 6代目「黒」円楽と5代目「馬」円楽

32年ぶり「寄席」復帰に  
笑う「新・三遊亭円楽」

年明け早々来年の話……。

『笑点』（日テレ系）の「腹黒」こと、三遊亭楽太郎（58）が、10年に師匠円楽（76）の名跡を継ぐことは発表済みだが、その披露興行が新宿末広亭で行われることが決定した。

「78年に円生率いる三遊亭一門や談志、志ん朝らが落語協会を脱けた。落語協会分裂騒動」という江戸落語界最大の事件がありました。従来の落語協会と落語芸術協会に加えて、円生のつく

った新協会の3会派で寄席を切り盛りしていこうという計画だったのですが、こ

れが頓挫。三遊亭一門以外はみな協会へ戻り、翌年には総帥円生が急死するや総領弟子の円楽一門だけが協会外に取り残される形となったのです」（事情通）

それゆえ、今にいたるまで円楽一門会は寄席での定席を持つことが出来なかったのだ。楽太郎師匠も32年ぶりという。

「芸術協会会長である歌丸師匠の尽力があったからこそです。もちろん落語協会にもお願いしています。落語ブームといわれる中、寄席を盛り上げるコマとして使っていたらいいな」と、いつになく殊勝なのは、年明け2日、横浜にぎわい座の高座を務めたばかりの楽太郎師匠である。落語協会も襲名興行を認めるとなれば上野鈴本にも上が

れることになる。噺家たるもの、やはり寄席に飢えていたのだろうか。

「そりゃあ、寄席には出たんですよ。落語協会会長の鈴々舎馬風師匠の感触もい感じですから、認めて貰えるといいのですが」（同）

あまり下手に出ていると『笑点』内での歌丸攻撃の切っ先も鈍るのではないかと。それはそれ、これはこれです。折角つくりあげたキヤラだもの、そうそう手放しませんよ」（同）

ではいつそのこと、協会に戻ってはどうかだろうか。「ならないという大師匠の遺言があるわけでもないし、もはや協会との軋轢もないですからね。戻ることだって出来ないことではないと思いますよ。だけどホラ、まだ師匠が存命中だから」

いよつ、黒円楽！

ロングランが続く  
8分映画

## 「岸辺のふたり」

毎朝10時より、1年間にわたる超ロングラン上映が

続いている。東京・新宿武蔵野館で昨年12月からかけられている『岸辺のふたり』がそれ。

「ひとつの作品が、同じ時間に1劇場で1年間も上映されるのは、初の試みだと思います」（宣伝担当者）

イギリスとオランダで製作され、海外では2000年に公開されたアニメ映画。セピア調の水彩画のようなタッチでセリフは一切ない。「ドナウ川のさざ波」をBGMに、父と娘の数十年前に及ぶドラマを描いた。

米アカデミー賞や、英アカデミー賞、オランダアニメーション映画祭や広島国際アニメーションフェスティバルなどで、数々の賞に輝くも、日本では公開されることなく、03年にDVDで発売されている。

「その後ジワジワと話題となり、大画面で見たいとの声が大きくなったために、04年に劇場公開したんです。さらに、もう一度という声が高まったのです」（同）

つまり販売した後、再度のスクリーン上映という、

これも稀なケースだ。料金は、500円ポッキリ！

「8分間の映画なんです。しかも2本立てで、もう1本は3分です。仕事前にモニターングコーヒーを飲む感覚で映画を味わって貰いたいです」（同）

実際、客席には男性が目立つという。しかも溢れる涙を拭うにはあまりにエンドロールが短いため男性トイレが混み合うことも。とはいえ、朝の10時から、である。仕事前に泣いている時間帯ではない。もっと早い時間に上映することは出来なかったのか。

「いやあ、さすがにこの短編だけのために劇場を早くに開けてもらうのは難しいんです。わずかに数分なら予告編程度ですから、なんとかかなると……」（同）

毎朝10時上映となった顛末である。

8分間で男を泣かす

